

## 第2章

.....

# 墨田区の食育を 取り巻く現状



## 1 食育における時代の潮流

生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むためには、健全な食生活を実践するとともに、食を通じたコミュニケーションや日本の食文化の継承、生産から消費までの食の循環、食品ロスの削減、災害時の食への配慮など、人と人、地域と地域のつながりを意識した食育に取り組むことが大切です。

2005（平成17）年6月に「食育基本法」が制定されてから10年以上が経過し、社会の潮流は、人口減少や少子高齢化、グローバル化、多様化する災害への対応、持続可能な循環型社会、情報通信技術の進化などへと加速しています。

また、2020（平成32）年の東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向け、年齢や国籍、障害、疾病、宗教などに関わらず安心して食をたのしめるユニバーサルデザインの視点に立った食環境づくりが必要です。

こうした流れの中で、若い世代の朝食の欠食や栄養の偏り、食習慣の乱れ、生活習慣病の予防対策、世帯構造や経済的な理由による子どもなどへの食支援、高齢者のフレイルなど、食をめぐる課題は山積しています。

そして、これらの課題に対応するには、一人ひとりの個性や価値観、多様な暮らしへの理解を深め、精神的な豊かさや生きがい、生活の質の向上をめざし、地域の多様な主体と区が協働で取り組む「地域力」が求められています。

### 高齢者のフレイル

加齢とともに、心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能が障害され、心身の脆弱化が出現した状態であるが、一方で適切な介入・支援により、生活機能の維持向上が可能な状態像

出典：平成27年度厚生労働科学研究特別研究後期高齢者の保健事業のあり方に関する研究 一部抜粋

## 2 墨田区の食育における現状

食育を取り巻く区の現状については、区民アンケートの調査結果や食育に関連する区の各計画を活用するとともに、区民参画のワークショップやヒアリング調査などを通して定量的、定性的、特徴的な活動事例の3つの評価などを行い、これまでの取組の成果と新たな課題を明らかにしました。

## (1) 定量的な評価

定量的な評価は、区の各事業の実施状況について、毎年評価を行うとともに、前計画改定時に設定した12の評価項目について、区民アンケートや区の各計画に基づき量的な面からの評価（【参考】定量的な評価 P 71 参照）を行いました。この調査結果から、区民の食育への関心や健康、食生活などの食環境に関する状況が明らかになりました。

### 定量的な評価項目：12項目の評価結果（概要）

#### 1. 食育に関心がある区民の割合

「食育」への関心度は、「関心がある」(28.9%)と「どちらかといえば関心がある」(43.5%)を合わせた「関心がある」は72.4%となり、2009(平成21)年度と比較すると、「関心がある」は3.3ポイント増加した。

#### 2. 食育のボランティア活動に参加したいと思う区民の割合

食育の推進に関わるボランティア活動への参加意欲は、「すでに参加している」が1.5%、「参加してみたい」は27.4%となり、2009(平成21)年度との比較では、大きな変化はみられなかった。

#### 3. よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心のある区民の割合

食べ方に関心があるかどうかについては「はい」が73.2%で高く、「いいえ」が25.4%であった。  
\*前計画改定時に調査追加項目となり、「健康」に関する区民アンケート調査の項目に加えて調査を行った。  
今回の結果を基準に今後の動向を把握する。

#### 4. 朝食をとっている区民の割合

中学生では、「毎日食べている」(78.8%)と「食べない日もある」(11.7%)を合わせた「食べる」は90.5%、高校生では、「毎日食べている」(81.4%)と「食べない日もある」(10.5%)を合わせた「食べる」は91.9%、20～39歳では、「ほぼ毎日食べる」(62.5%)と「週4～5日食べる」(7.7%)を合わせた「食べる」は70.2%であった。

2008(平成20)年度と比較すると、中学生では1.9ポイント減少、高校生では5.3ポイント増加、20～39歳では5.2ポイント増加した。

#### 5. 朝食を家族と一緒に食べる中学生の割合

朝食を一緒に食べる相手は、「ひとりで」が42.9%で最も高く、「家族の誰かと一緒に」が40.4%となり、2009(平成21)年度と比較すると、「ひとりで」が3.9ポイント増加した。

#### 6. 夕食を家族と一緒に食べる中学生の割合

夕食を一緒に食べる相手は、「家族そろって」(43.6%)が最も高く、「家族の誰かと一緒に」(41.7%)と合わせると85.3%となり、2009(平成21)年度と比較すると、「ひとりで」が3.7ポイント増加した。

---

## 7. やさしいまちメイトにおける飲食店及び食材を取扱う企業・店舗の数

やさしいまちメイトへの登録企業・店舗数は、38 団体となり、2009（平成 21）年度から 2 団体増加した。

---

## 8. すみだモダン ブランド認証事業（飲食店メニュー部門）に認証された飲食店などの数

ブランド認証事業により「すみだモダン」に認証されたメニューの数は 45 件で、2011（平成 23）年度から 31 件増加した。

---

## 9. 学校給食における地場（東京都）産物を使用する学校の数

2011（平成 23）年度は中学校の全校で東京都産の産物を使用、小学校では 25 校中 9 校だった。2016（平成 28）年度には小学校・中学校のすべての学校での実施となった。

---

## 10. 食品を購入するときに表示を確認する区民の割合

食品の表示を確認するかでは、2010（平成 22）年度に 91.4%、2015（平成 27）年度では 90.5%と約 90%以上が表示を確認するとなった。

---

## 11. 学校の活動以外で農業・漁業体験をした中学生の割合

学校の活動以外（家庭や地域など）で農業体験をしたことがある割合は全体の 32.0%となり、2014（平成 26）年度と比較すると、3.2 ポイント増加していた。漁業体験をしたことがある割合は全体の 36.6%となり、2014（平成 26）年度と比較すると、7.9 ポイント増加した。

---

## 12. 食育の取組に関わる地域団体、事業者、企業などの件数

協働による「民」の食育活動の軸となる団体として前計画に位置づいているすみだ食育 good ネットに加入している団体会員の数と食育イベントに協力している団体などの数及びすみだ食育 good ネットに加入している個人会員数の合計は、179 件となった。2011（平成 23）年度と比較すると、29 件増加した。

---

### 区の他の計画における食育関連指標：2 項目（概要）

#### （ア）区民一人一日当たりのごみ排出量

区民一人が一日に出しているごみの量は、2015（平成 27）年度は 572g となり、2010（平成 22）年度と比較すると 57g 減少した。

#### （イ）公園や緑地に満足している区民の割合

緑の豊かさに満足しているかでは、「よい」（8.4%）と「やや良い」（17.2%）を合わせると 25.6%となり、2010（平成 22）年度と比較すると、4 ポイント増加した。

---

## (2) 定性的な評価

定性的な評価は、5つの基本目標及び基本理念にある「手間かけて」に沿った設問項目を設定し、2012（平成24）年度から2016（平成28）年度にアンケート調査を行いました。

食育の取組を進めることで、どのように広がり、深まっていったのか、テキストマイニング手法（形態素分析、共起分析、クラスター分析）を用いた分析を踏まえて（【参考】定性的な評価P 78 参照）、「食・健康・生きる・コミュニケーション・原動力・展開」の6つのカテゴリーに分類しました。

その分類に基づき、年度ごとの動向を追った結果、各設問とも6つのカテゴリーに属する単語の出現割合が増加していることが明らかとなりました。

このことから、「第10回食育推進全国大会」を経て、区民の食育に関する意識が高まってきているということが推察されます。

### 設問項目

評価項目・(質問)	
設問1	食で「ひと」が育まれているかを把握する指標 (質問) 食について生涯を通じて学ぶことは、なぜ大切だと思いますか。
設問2	食で「家庭」が育まれているかを把握する指標 (質問) 家庭で一緒にごはんを食べることは、なぜ大切だと思いますか。
設問3	食で「まち」が育まれているかを把握する指標 (質問) 「すみだの食」に誇りがもてることは、なぜ大切だと思いますか。
設問4	食で「安心」が育まれているかを把握する指標 (質問) 安心して食べ物が手に入ることは、なぜ大切だと思いますか。
設問5	食で「協働」が育まれているかを把握する指標 (質問) 様々な人と一緒に食育に取り組むことは、なぜ大切だと思いますか。
設問6	「すみだらしい食育文化」が育まれているかを把握する指標 (質問) 「手間かけて」という言葉がスローガンとして掲げられたことをどう思いますか。

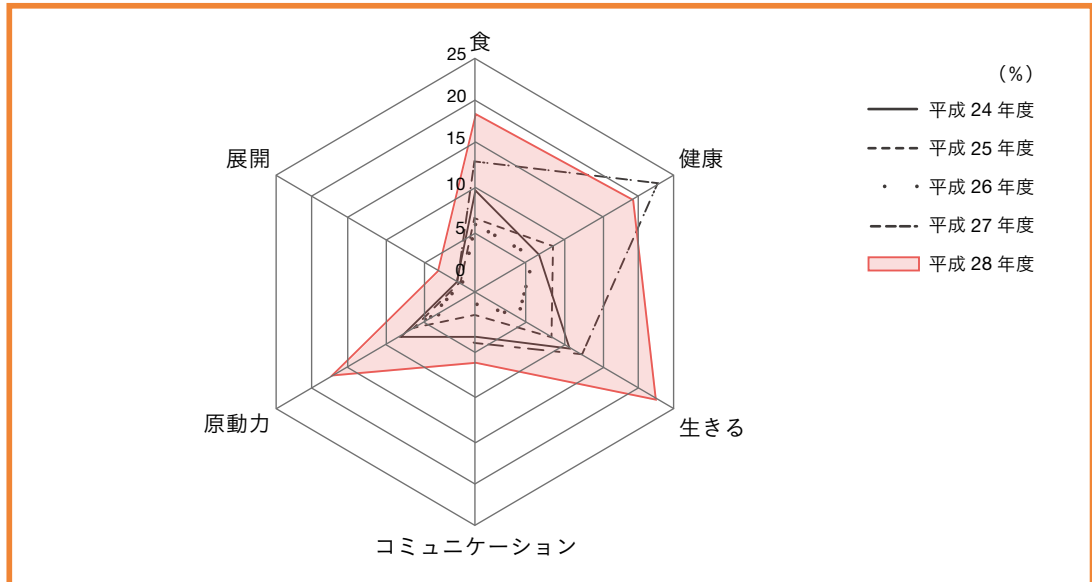
### 定性的評価の指標

6つのカテゴリー	単語
① 食	食、食事、食生活 など
② 健康	健康、長生き、健やか など
③ 生きる	生きる、人生、命 など
④ コミュニケーション	コミュニケーション、つながり、協働 など
⑤ 原動力	楽しい、愛情、大切 など
⑥ 展開	取組、育む、育 など

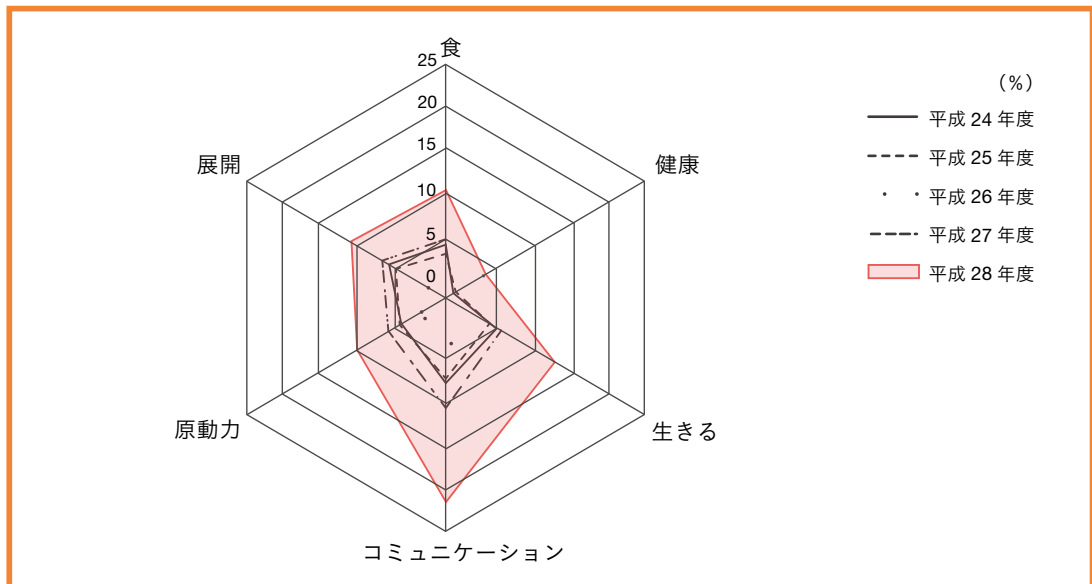
**参考** 定性的な評価（P 80、P 82 一部抜粋）

6つの設問項目のうち設問1と設問5の分析結果を以下に示します。

**設問1** 食について生涯を通じて学ぶことは、なぜ大切だと思いますか。



**設問5** 様々な人と一緒に食育に取り組むことは、なぜ大切だと思いますか。



### (3) 特徴的な活動事例の評価

前計画を改定した2012（平成24）年度から2016（平成28）年度までの5年間に行われた特徴的な食育活動10事例について、ヒアリング調査を行いました。

その結果（【参考】特徴的な活動事例 P 83 参照）、食育を「受ける側」から「担う側」へ、「単独の活動」から「協働の活動」へと展開し、新たなつながりを生み出していることがわかりました。

#### 特徴的な活動事例：10事例

	主な取組の名称	■ 主催、○ 関係団体など
1	すみだ環境フェア	■ すみだ環境フェア実行委員会（事務局：環境保全課） ○ 地域団体、NPO、事業者、企業、各種学校、児童館、生産者、すみだ食育 good ネット、すみだ清掃事務所など
2	エコライフ講座	■ 環境保全課 ○ 飲食店、NPO、事業者、企業、地域団体、すみだ食育 good ネットなど
3	すみちゃんカレープロジェクト	■ すみだ地域栄養ネットワーク ○ 企業、病院、保育園、学校、すみだ食育 good ネットなど
4	とちまるくん 土地廻る君	■ すみだ食育 good ネット ○ 地域団体、企業、飲食店など
5	しょくいくびと 食育人に会いに行こう！	■ すみだ食育 good ネット ○ 地域団体、食品事業者、飲食店、企業など
6	すみだ青空市ヤッチャバ	■ すみだ青空市ヤッチャバ事務局 ○ 生産者、児童館、地域団体、事業者、すみだ食育 good ネットなど
7	すみだ農園	■ 墨田児童会館 ○ すみだの食育の未来を考えるワークショップ“ひとチーム”、大学生、企業、食品事業者、すみだ食育 good ネット、児童館、向島保健センターなど
8	すみだ街かど食堂	■ すみだ食育 good ネット ○ NPO、地域団体、墨田区社会福祉協議会など
9	「食品表示カルタ」の 作成と普及啓発	■ 日本食品保健指導士会、向島・本所保健センター、保健計画課 ○ ステップ学級、すみだ食育 good ネット、生活衛生課など
10	食育推進ネットワークを 活かした食育の取組	■ すみだ食育 good ネット ○ 区民、地域団体、NPO、事業者、企業、大学など



## (4) 食育を推進する人材の育成と 食育推進ネットワークの強化

「食育」を推進するのは「人」であり、一人ひとりが何を大切に、どんな「夢」を持ち、どのように行動するかによって取組の成果が変わります。

そのため本区では、食育を推進する「人」に注目し、2008（平成20）年度から「食育を推進する中核となる人材」の育成を積極的に進め「すみだ食育推進リーダー育成講習会」を開催し、リーダーの育成を行いました。また、地域の若者などがコーディネーターとなり多様な主体をつなぐ新たな担い手も育んできました。

講習会を修了した1期生が「すみだ食育推進リーダー会」を発足し、食育イベントの運営を通して食育関連団体とのつながりを強くし、ネットワークづくりのきっかけを生み出しました。

2010（平成22）年度には、すみだ食育推進リーダーを主軸に区民、地域団体、NPO、事業者、企業、大学などとともに「すみだ食育 good ネット」を設立し、食育推進ネットワークの基盤づくりへと進み、民と区の協働による推進体制が整いました。

「すみだの食育」は、多様な主体による協働の取組を活動の基本とし「平時の食育」と「災害時の食支援」という2つの視点から取組を始め、第10回食育推進全国大会の開催を通して、先進事例として評価を受けるに至りました。



すみだ食育推進リーダー育成講習会



すみだ食育 good ネットの活動  
(第10回食育推進全国大会にて食育ボランティア表彰受賞)

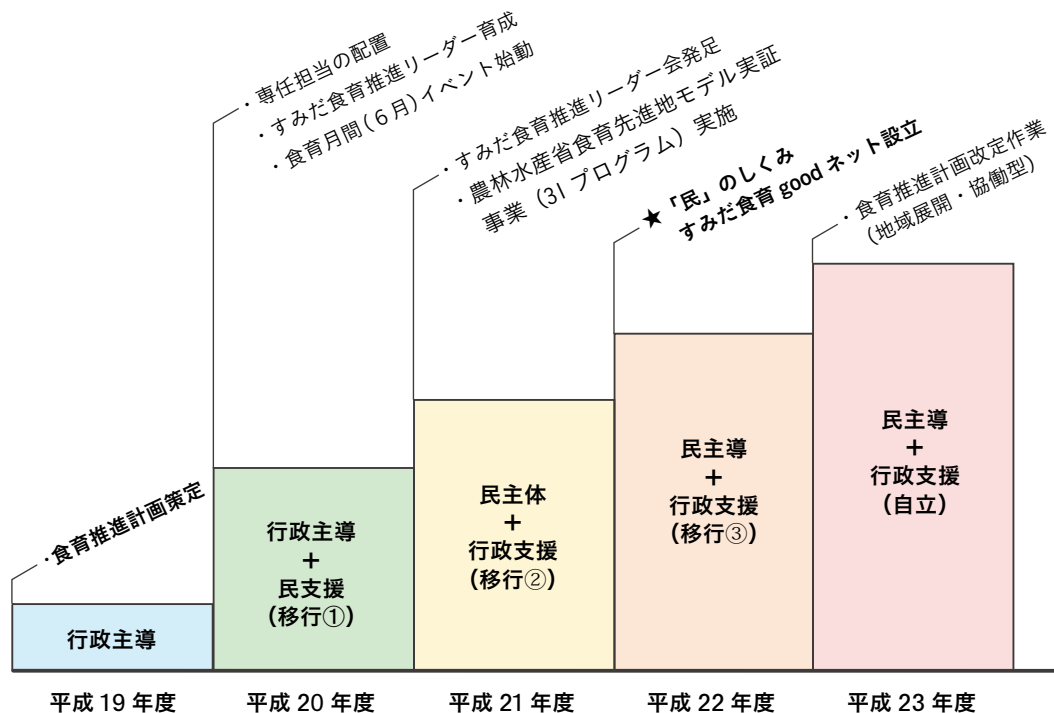
## (5) 協働の食育推進体制の確立から 地域に根差した取組の展開

本区は、2007（平成19）年度に「墨田区食育推進計画」を策定してから10年かけて「すみだらしい食育文化を育むまちづくり」を推進してきました。

最初の5年間は、行政主導から民主体、民主導へと展開し、民の組織化を図り、多様な主体による協働の食育推進体制の基盤をつくりました。

次の5年間は、それをもとに、人づくりや「災害時の食支援」、「第10回食育推進全国大会」などを行い、地域に根差した食育の展開へと着実に進めることができました。

### 「すみだの食育」のあゆみ



### 3 今後の取組

食を取り巻く時代の潮流や新たな食の課題を視野に、これまでの10年の取組の成果を活かし、「食育」を推進するのは「人」とであるという考えを基本とします。

そのうえで、多様な価値観を認め合い、広い視野を持ちながら、世代や分野、地域をこえて区内外のあらゆる地域資源をつなぎ「すみだらしい食育文化」を育みながら「協創の食育」を推進する環境づくりへと進化させていきます。

